

きたかみ未来創造会議

創造NEWS 第13号

2010.1.20
第13回会議
将来の姿を
あらかず指標を
選ぶの巻

今回は、前回検討した「目指すべき将来の姿」をあらかず指標について議論を深めるとともに、成果を可視化するため客観的指標についても検討しました。

■第13回「きたかみ未来創造会議」の概要

今回は、前回の内容をより深めるために、指標を数値化し、成果の達成状況が確認できるよう、現状値が把握されていない主観的な指標（～している人の割合など）に関しては、その指標を補う「客観指標（統計的なデータを持つ指標）」を検討しました。

はじめに、北上市政策企画課から、まちづくりにおける「ありたい姿」を市民と共有し、達成状況を確認しながら、ありたい姿の実現に向けて改善していくことが重要であること、その成果をあらかず「指標」について、主観的指標と客観的指標の役割が説明されました。

その後、それぞれの分野に事務局が入り、分野ごとに前回出された指標の確認と、現状値が把握されていない指標に関しては、それを補うデータとして、どんな既存データがあるのか情報提供が行われました。

そして、グループワークの開始です。今回は目指すべき将来の姿ごとに指標の優先順位を決めるとともに、各指標の優先順位1位から3位が全て主観指標である場合は、それを補う客観指標の選択を行いました。

今回の作業の中で、成果をあらかず指標となっているか、目指すべき将来の姿が重複しているなど、これまでの検討内容をより深める議論も多く、各分野ともに難航している様子でありました。

各分野で指標を確定させたあとは、お留守番と訪問者に分かれ、意見交換を実施しました。やはり外からの視点は大切で、分野内では見えなかった観点をそれぞれで感じ、今回の作業を終了しました。

次回は、今回の優先順位を前回の意見交換を踏まえ確認するとともに、客観指標で現状値があるものに関しては、5年後、10年後どのようになっていけばよいか目標水準の検討に入りたいと考えています。

今がちょうど「生みの苦しみの」時期です。みんなが共有できるまちづくりの成果指標の検討に向け、次回も積極的なご参加をよろしくお願いいたします。

<次回案内>

- 日時：2月4日（木曜日）18：30～
- 場所：市民交流プラザ（ツインモール西館）



指標の選びかたの情報提供



指標の説明



指標の選択の議論



分野を超えた意見交換

<それぞれの目指すべき将来の姿に対しての想定される指標>

分野：保健福祉

目指すべき将来の姿（具体的に実現したいあるべきまちの将来像）

A1 出産に対しての不安がやわらぎ、だれもが安心して産むことができる

出生率の向上 (1)	周産期死亡率 (2)	男性が育児休暇を取る割合 (3)	
------------	------------	------------------	--

A2 育児に対しての精神的、経済的不安が少なく、親と子供達が健康に暮らせる

育児環境が整備され、安心して子育てが出来たと感じる割合 (1)	育児休暇利用率 (2)	子育てサークルの利用者数 (3)	出産後の子育てしやすい環境が整った	乳幼児の死亡率の減少
---------------------------------	-------------	------------------	-------------------	------------

・分母は？

・対象：育児世代の両親

A3 働きながら子育てしやすい保育環境が整い、だれもが安心して子供を育てられる

保育園の待機児童数 (1)	男性が育児休暇を取る割合 (2)	放課後児童クラブ数 (3)	育児に対して不安を持つ人の割合
---------------	------------------	---------------	-----------------

A4 育児相談が気楽にできる環境が整い、地域とともに責任をもって子どもを育てられる

育児環境への満足度 (1)	育児に対して不安を持つ人の割合 (2)	地域子育て支援センター利用者数 (3)	地域内で安心して子どもを育てられるを感じる割合
---------------	---------------------	---------------------	-------------------------

A5 年をとっても、障がいがあっても必要に応じて支援や福祉サービスを受けられる

高齢者のボランティア活動、地域活動への参加率 (1)	障がい者雇用率 (2)	専門的資格をもって携わる人の数 (3)	
----------------------------	-------------	---------------------	--

A6 高齢者が身体的、精神的に健康で安心した生活を送り続けることができる

高齢者のボランティア活動、地域活動への参加率 (1)	生きがいを持っている高齢者の割合 (2)	高齢者雇用率 (3)	
----------------------------	----------------------	------------	--

A7 障がい者が自立した生活を実現できる環境がある

障がい者雇用率 (1)	福祉施設から一般就労への移行数 (2)	授産施設利用者数 (3)	
-------------	---------------------	--------------	--

A8

--	--	--	--

A9 積極的な健康づくりと疾病予防によって市民が充実した暮らしを送ることができる

1人あたりの医療費 (1)	特定検診受診率 (2)	生活習慣病罹患率 (3)	
------------------	----------------	-----------------	--

A10 かかり医制度の充実と医療機関の開かれた連携によって、情報提供システムができ適切な医療サービスを受けられる

開業医と総合病院の連携の充実が感じられる割合 (1)	人口あたりの医師、歯科医師数 (2)	救急車平均搬送時間 (3)	医療サービスへの満足度	医師、歯科医師数が充実してきたと感じる割合
-------------------------------	-----------------------	------------------	-------------	-----------------------

A11 病院や地域でのリハビリテーションが充実している

介助ボランティア数 (1)	リハビリ専門医の増加 (2)	障がい者や高齢者を持つ家族の中で、身近に相談できる人 (3)	
------------------	-------------------	-----------------------------------	--

A12 地域で、互いに支え合い知恵を出し合って、誰もが安心して暮らせる

人口当たりの自殺率 (1)	地域内で安心して子どもを育てられるを感じる割合 (2)	乳幼児、児童虐待件数 (3)	
------------------	--------------------------------	-------------------	--

A13 身体的・社会的・経済的などあらゆる不安や困難に陥ったときに安心して話せる

不安に陥った時に相談できる場所があると感じる人の割合 (1)	民生委員の相談指導件数 (2)	福祉協力員への相談件数 (3)	地域での福祉活動への参加者数	見守り活動を行っている人の数
-----------------------------------	--------------------	--------------------	----------------	----------------

A14

--	--	--	--

<それぞれの目指すべき将来の姿に対しての想定される指標>

分野：教育文化

目指すべき将来の姿（具体的に実現したいあるべきまちの将来像）

B1 特色ある教育の実践と進学への支援により、優秀な人材が生まれている

標準学力検査及び学習定着度状況調査における正答率の上昇 (1)	学びたいことがある子どもの割合 (2) ・対象：中学生	学校が楽しいと感じる児童、生徒の割合 (小学生、中学生) (3)	
------------------------------------	--------------------------------	--	--

・学力を入れた方が良いのでは？

B2 地域・家庭の連携により、子どもたちが生き生きと生きる力を育む学習環境が整っている

子どもの教育について学校、家庭、地域の連携が十分だと思う割合 (1) ・対象：市民全般	地域の人で学校教育に関わった人の数 (2)	児童生徒のボランティア参加率 (3)	
--	--------------------------	--------------------	--

B3 高等教育機関が創設されていることによって、より教育内容が豊かになっている

創設された高等教育機関の数 (1)	教育内容への満足度 (2) ・対象：短大・大学	就職率 (3)	中途退学率 (4)
-------------------	-------------------------------	---------	-----------

B4 より多くの市民が自ら質の高い生涯学習の機会を創出することによって、より豊かな生活を送っている

生涯学習によって、豊かな生活を送ることができていると感じる人の割合 (1) ・対象：成人	市内生涯学習事業への参加者数 (2)	市民(1)人あたりの図書館からの貸出冊数 (3)	
---	--------------------	-----------------------------	--

B5

--	--	--	--

B6

--	--	--	--

B7 産官学が提携することによって、先端技術を取得できる教育環境がある

職場からの受講者数(一般) (1)	産学官連携における講座数 (2)		
-------------------	------------------	--	--

B8 誰もが健康や競技など、それぞれの目的にあったスポーツを、目的にあった指導により実践することができる

年齢型スポーツの機会数 (1)	定期的にスポーツを行っている人の割合 (2)	スポーツ環境に対して満足している人の割合 (3)	
-----------------	------------------------	--------------------------	--

・「ニュースポーツ」という言葉を入れた将来像も必要ではないか (ペタンク)

B9

--	--	--	--

B10 守り育ててきた民俗芸能や文化財の価値を市民が理解し、次世代につなげることができる

30歳までの若者の中で、伝統文化を継承しているグループに所属している人の割合 (1)	関連事業への参加者数 (2)	民族芸能を発表する機会の数 (3)	
--	----------------	-------------------	--

B11 市民誰もがさまざまな文化活動に触れる環境が整い、地域の特性を生かした生活を送ることができる

芸術文化活動の総参加者数 (1)	教育文化施設の利用者数 (詩歌文学館、博物館など) (2)	豊かな文化活動があると感じる割合 (3)	
------------------	-------------------------------	----------------------	--

B12 さまざまな国際文化に触れる環境が整い、多様な価値観を受容し、さまざまな文化と交流できる人材が育っている

国際理解教育が充実していると思う人の割合 (1) 対象：市民	国際交流ボランティア数 (2)	国際交流行事の数 (3)	
-----------------------------------	-----------------	--------------	--

B13

--	--	--	--

<それぞれの目指すべき将来の姿に対しての想定される指標>

分野：産業雇用

目指すべき将来の姿（具体的に実現したいあるべきまちの将来像）

C1 農業・商業・工業が特徴を活かした連携によって、多様な発展を続け、魅力がある職場が生まれている

魅力ある職場があると思う割合 (1)	農商工連携新規事業数 (2)	店舗・会社の数 (3)	地場産品を売っている店舗数	市内産の農産品を進んで購入する人の割合
-----------------------	----------------	----------------	---------------	---------------------

・(1)の対象を就職を希望する高校生(働こうとしている人)

C2

--	--	--	--

C3

--	--	--	--

C4 それぞれの商店が独自の発想と資源の組み合わせにより、魅力ある商店街をつくり出している

市内の商店街で主に買い物をする市民の割合 (1)	店舗数(事業所統計に基づく卸、小売、飲食、サービスの各業) (2)	中心市街地歩行者数 (3)	地場産品を売っている店舗数
--------------------------	-----------------------------------	------------------	---------------

・市民全体にアンケートをランダム的

C5 北上独自の産業構造が構築され、安定した産業・雇用形態が形成されている

有効求人倍率 (1)	1人当たり分配所得額の向上 (2)	市内経済成長率 (3)	
------------	-------------------	----------------	--

・北上独自の部分

C6 様々な資源を活かした、通年型観光の仕組みが構築されている

年間観光客数 (1)	観光宿泊者数 (2)	リピーターの数 (3) ・観光客に聞く	体験型観光の問い合わせ数
------------	------------	---------------------------	--------------

C7 地産地消の食糧循環サイクルが豊かになる・・・そうすることで具体的な指標が出る

売上高、学校給食の地元産利用率			
-----------------	--	--	--

C8

--	--	--	--

C9 市民が農業の大切さを理解し、地域全体で農業を支え、安心安全な食料が提供されている

市内産の農産品を 進んで購入する人の割 合 (1)	地産地消率（学校給 食） (2)	農業体験参加者数 (3)	産地直売所販売額
---------------------------------	---------------------	-----------------	----------

- ・市民全体にアンケートをランダム的に
- ・市内産の農産品を意識しているか

C10 農業所得が向上し、新たな就農者が生まれ、安定的な農業経営ができる環境がある

市内産の農産品を 進んで購入する人の割 合 (1)	新規就農者数 (2)	農家一戸当たり分配 所得額の向上 (3)	地場産品を売って いる店舗数
---------------------------------	------------	-------------------------	-------------------

- ・市民全体にアンケートをランダム的に
- ・市内産の農産品を意識しているか

C11

--	--	--	--

C12

訓練・講座の受入れ 数（訓練施設の数、 職業訓練施設の延べ 訓練人数） (1)	資格取得者数 (2)	受講者の就職率（市 内経済成長率） (3)	
--	------------	-----------------------------	--

- ・コンピューター・アカデミーの影響は？

C13 産業分野で活躍できる人材が育成され活躍することによって、地元産業が発展している

地元への就職率 (1)	ものづくり体験教室 等ものづくり人材育 成の受講者数 (2)	職業訓練施設の延べ 訓練人数 (3)	市内経済成長率
----------------	--------------------------------------	-----------------------	---------

C14

--	--	--	--

<それぞれの目指すべき将来の姿に対しての想定される指標>

分野：生活環境

目指すべき将来の姿（具体的に実現したいあるべきまちの将来像）

D1 北上の自然を市民が共通の財産としてとらえ、それを次世代につなげることができる

緑などの自然環境などに満足している市民の割合 (1) ・対象：小中学生	次世代につなげる取り組みを行っている人の割合 (2)	環境学習講座受講者数 (3)	自然を大切にしたいと感じる人の割合
--	----------------------------	----------------	-------------------

D2 里山・農村などの保全・整備によって、自然と共生を維持することができる

市民一人当たりの緑地面積 (1) ・耕作放棄地面積	森林蓄積面積 (2)	野生動植物種類 (3)	水辺で生息している生物の種類
------------------------------	------------	-------------	----------------

D3 自然破壊や人体に影響を与える公害を出さず住み良いまちとなっている

大気汚染物質に係る環境基準適合率 (1)	環境保全協定締結事業所の協定基準遵守率 (2)	騒音・悪臭等の状況に関する地区環境が良いと感じている市民の割合 (3)	一般道路交通騒音に係る環境基準適合率	環境が良く、住みよいと思っている人の割合
----------------------	-------------------------	-------------------------------------	--------------------	----------------------

D4 新エネルギーの導入などにより、CO₂の削減に向けた仕組みが構築されている

総二酸化炭素排出量 (1)	太陽光発電量 (2)	低公害車導入台数 (3)	クリーンエネルギーの発電量
---------------	------------	--------------	---------------

D5

--	--	--	--

D6

--	--	--	--

D7 市民、企業、行政それぞれで3R(リサイクル・リユース・リデュース)などごみ減量のシステムが構築され、循環型の社会が形成されている

リサイクル率 (1)	1人1日あたりのごみ排出量 (2)	市民、企業、行政それぞれの取り組み割合 (3) ・対象：企業	ごみをださないように取り組んでいる人の割合	資源回収率
------------	-------------------	-----------------------------------	-----------------------	-------

D8 不法投棄がなく、ごみ分別のマナーが守られ、きれいなまちになっている

不法投棄発生件数 (1)	ごみステーションから回収されないごみの量(件数) (2)	清潔なまちであると感じている市民の割合 (3)	まちにごみがなくきれいだと思う人の割合
-----------------	------------------------------	-------------------------	---------------------

D9

--	--	--	--

D10 地域・家庭・学校などが連携し交通事故のない市民誰もが安心して安全に住めるまちになっている

交通事故発生件数死者数 (1)	交通安全教室啓蒙活動への市民参加 (2)	交通違反者数 (3)	
-----------------	----------------------	------------	--

D11 地域・家庭・学校などさまざまな防犯体制の連携によって、犯罪のない市民誰もが安心して安全に住めるまちになっている

犯罪件数 (1)	青少年の犯罪、補導件数 (2)	安全に安心して住めると感じる人の割合 (3) ・対象：市民	
----------	-----------------	----------------------------------	--

D12 防災のための組織・連携構築と、災害に強い施設設備の充実によって市民の生活を守る

自主防災組織 組織率 (1)	耐震診断実施戸数 (2)	耐震改修実施戸数 (3)	防災組織活動数
----------------	--------------	--------------	---------

・自主防災組織はどの地域でもつくったはずなので、その稼働率はどうか？

D13 市民が高い防犯・防災意識を持って、市民自らが生活を守ることのできる環境がある

災害に強いまちづくりに対する市民満足度 (1)	防災訓練参加者数 (2)	救急救命の講習受講者数 (3)	常に防犯防災に対して、対策を行っている人の割合	けが人、病人に応急手当が出来る人の割合
-------------------------	--------------	-----------------	-------------------------	---------------------

D14 地域で災害発生ポイントが共有され、安全な避難経路や避難施設が平時から理解されている

避難経路や避難施設を理解している人の割合 (1)	避難所看板設置率 (2)	土砂災害危険区域周知看板設置率 (3)		
--------------------------	--------------	---------------------	--	--

・対象：高校生以上

<それぞれの目指すべき将来の姿に対しての想定される指標>

分野：基盤整備

目指すべき将来の姿（具体的に実現したいあるべきまちの将来像）

E1 身体的・社会的などの背景が異なる全ての市民が不自由なく社会サービスを楽しむことができる

バリアフリー整備施設数 (1)	公共施設の外国語案内数 (2) ・障がい者に対する案内板も必要では。	市内を車で移動するときにスムーズにできていると思っている人の割合 (3) ・車だけでなく、歩行者、自転車も。 ・対象：全ての市民。
-----------------	---------------------------------------	---

E2 ひとにやさしく心地よく歩けるまちになっている

市内に歩きやすい道路環境があると感じる人の割合 (1) ・対象：歩行者	歩道整備率 (2)	通学路における歩道整備率 (3)	道路に対する苦情数	歩道整備率 ・市街地 ・通学路
--	-----------	------------------	-----------	-----------------------

E3 生活と産業を支える安定した上水道サービスが継続的に行われている

水道法に定められた水質基準の達成率 (1)	上水道サービス苦情数（苦情内容） (2)	水道水を飲料水として飲む人の割合 (3)
-----------------------	----------------------	----------------------

E4 下水機能の整備・利活用がされ、快適になっている

水洗化率 (1)	下水道普及率 (2)	汚水処理施設整備済み人口／全人口（汚水処理施設整備率） (3)	排水区域の整備率
----------	------------	---------------------------------	----------

・活用されているかのデータがない！

E5

--	--	--	--

E6 交通拠点との効率的な道路の整備によって生活・産業を支える道路ネットワークが構築されている

交差点滞留時間 (1)	市道改良率 (2)	市道舗装率 (3)	地域回遊歩行者や交通弱者等すべての利用者の安全な通行ができていると感じる割合	市内を車で移動するときにスムーズにできていると思っている人の割合
-------------	-----------	-----------	--	----------------------------------

・限定すればOK。時間（出勤、退社時…）〇〇交差点

E7 効果的な除雪や道路補修により、安全な道路環境が構築されている

除雪に対する苦情数 (1)	道路に対する苦情数 (2)	道路交通に対して不便だと感じる人の割合	除雪車の出勤率 (地区ごと)	通報件数と対応件数	歩道除雪をどの程度委託しているか
---------------	---------------	---------------------	----------------	-----------	------------------

・新しく指標を考えること！

・苦情数とともに苦情内容の分析

- ・地区ごとのアンケートをとる
- ・除雪に関しては、市民意識調査の項目に入っている

E8 高度情報網を使ったサービスによって、市民が生活機能の維持・充実している

情報化によって便利だと感じている人の割合 (1) ・情報弱者を調べる必要あり	高度情報サービス整備率 (2)	電子行政サービス利用者数 (3)	
---	-----------------	------------------	--

- ・高度情報通信システムの確立に関するアンケートあり
- ・インフラ整備率と満足度は一致しない！！

E9

--	--	--	--

E10 持続可能な公共交通と地域での補完的交通により、市民誰もが快適に生活できる

公共交通の利用のしやすさ (公共交通の利便性が高いと感じる市民の割合) (1)	公共交通利用者数 (2)	通学、通院や買い物で不便を感じている人の割合 (3)
---	--------------	----------------------------

E1 1

--	--	--	--

E1 2 自然と都市の調和の取れた計画的なまちづくりによって持続可能な都市構造になっている

北上市の土地利用制限についてあなたはどのように考えますか (目的別に区分けされた土地利用が進められていると思う人の割合) (1)	あなたはこれからも北上市に住み続けたいと思いますか？ (ずっと北上市に住みたいと思う人の割合) (2)	市民の公園に対する満足度 (3) ・老人、子どもがいる人に聞いてみる
--	---	---------------------------------------

E1 3 各地区と中心市街地が連携し、市民誰もが生活に必要なサービスを受けることができる

公共交通の利便性が高いと感じる市民の割合 (1)	各地区から、中心市街地に気楽に簡便に行けると感じる割合 2 ・地区限定で聞いてみる	地域回遊歩行者や交通弱者等すべての利用者の安全な通行ができていると感じる割合 (3)
--------------------------	--	--

- ・コンパクトシティを評価する指標はないの！？

E1 4

--	--	--	--

- 共通して
- ・指標を考えると、代替ではなく新しいデータを取る必要があるのでは？
 - ・最初の数年間はデータ取りも並行しては？

<それぞれの目指すべき将来の姿に対しての想定される指標>

分野：推進体制

目指すべき将来の姿（具体的に実現したいあるべきまちの将来像）

F1 市民・企業・行政がそれぞれの自治における役割を理解しそれを果たすことができる

各セクター・自治

自治における市民の役割を理解している人の割合 (1) ・対象：市民	セクターごとの自治活動数 (1)		
--------------------------------------	------------------	--	--

・調べる方法難しい。誰が?? 行政⇔市民

F2 全ての世代がまちづくりを自主的に関わっており、より満足感のある社会になっている

各セクター・自治

まちづくりへの参加者数 (1)	住んでいる地域に愛着を持っている人の割合 (2)	現在の市民参画のあり方に満足をしている人の割合 (3)
社会活動をしている人の割合	積極的な協働が北上にあると感じている人の割合	協働事業参加者数

・実数ではかるの？

・数字だけでなく、分析大切

F3

--	--	--	--

F4 それぞれが特色を活かした地域づくり活動が実践され、誇りと愛着をもった人・地域が形成されている **地域づくり**

F4、F5の下線部同じ？

地域づくり活動参加者数 (1)	地域づくり活動数 (1)	住んでいる地域に愛着を持っている人の割合 (2)	自分の生まれ育った地域に住み続けたいと思う人の割合 (3)
-----------------	--------------	--------------------------	-------------------------------

F5 活発な地域活動に行われており、生活機能が維持されている

地域づくり

自分の生まれ育った地域に住み続けたいと思う人の割合 (1)	地域づくり活動数 (2)	40歳未満の市民活動への参加率 (3)
-------------------------------	--------------	---------------------

・人、リーダー、担い手の面で指標不足？ 不安

F6

--	--	--	--

F7 市民・企業・行政がそれぞれの立場を理解し、責任と役割のもとに、互いの長所を活かした協働ができる **協働？**

F7とF8の下線部同じ？

協働事業数 (1)	協働を行うことができる市民活動団体数 (2)	積極的な協働が北上にあると感じている人の割合 (2)	市民企業による公的サービスが充実していると感じている人の割合
-----------	------------------------	----------------------------	--------------------------------

協働により行われた事業について満足している市民の割合	多くの市民・企業が参画した事業数	市民が計画段階から参画した事業数	
----------------------------	------------------	------------------	--

・企業の役割の指標がほしい

F8 市民と企業との協働があり、多様なサービスがうけられている
協働

市民企業による公的サービスが充実していると感じている人の割合 (1)	公共サービスへの参入企業・団体数 (2)	積極的な協働が北にあると感じている人の割合 (3)	
------------------------------------	----------------------	---------------------------	--

F9

--	--	--	--

F10

--	--	--	--

F11

--	--	--	--

F12 みんなで情報を共有し、一緒に話し合える場があり、市民が共感をもつ公的サービスが実現出来ている
市民・企業が (行政)

市民参画による政策評価実施 (1)	行政サービスへの満足度 (2)	情報開示請求数	市政情報の非理解者、問い合わせ件数
-------------------	-----------------	---------	-------------------

F13 施策優先度と市民ニーズが反映され、公共サービスを継続的に提供できる財政基盤が構築されている
公的サービス

会計単位、連結全体での起債残高 (1)	税金が有効に使われていると思う人の割合 (2)	経常収支比率 (2)	長期の財政計画が果たされているか
---------------------	-------------------------	------------	------------------

F14

--	--	--	--

F15 国・県・他市町村と効率的な役割分担の仕組みが構築されており、効果的な公共サービスが実現している

国県市の役割について、異なる立場の主体者が話し合った数 (1)	この1年で縦割り行政の弊害を感じたことのある市職員の割合 (2) ・対象：市職員	この1年で縦割り行政の不都合を感じたことのある市民の割合 (3)
---------------------------------	---	----------------------------------

F16

<ふりかえりカードから>

- 全体の資料のまとめが良い。
- なかなか進まず、時間がもう少し必要だった。
- あるべき姿の整理が必要である。これまで、その時間は設けていなかったから。
- 他の班を見て回っても、見難かったり、時間的にコメントできるに至らない。
- 本日は非常に難しい。夜ではなく、昼中でも1日かかる作業だと思う。
- 頭が“トウフ”のようです。人間の集中力は持続しないものですね。理想を数値などの指標で示すのは容易ではないが、楽しくもあり勉強になりました。
- 時間が限られ、十分な思考ができない。作業を理解するまでに時間がほしいし、それに時間がとられる。
- やはり時間が足りないと感じた。
- 非常に難しいです。目標設定は…無理!!
- 時間がない中で指標を整理していく作業は大変だった。次回見直しもありとのことなので、時間をかけて作業できればと思う。
- 主観指標を客観指標にかえていく作業は、具体的なデータがどこにあるか知るところから始まると思いました。
- 今回は考える時間がある程度あったのでグループできちんと話し合うことができたと思う。もっと時間は必要でもある。
- スタッフ・グループ員の協力で進むことができました。次会も頑張ります。
- 最後としひこさんに5班がほめられてうれしかった!!5班の雰囲気もホメホメモードでいい感じでございます。おつかれ様でした。
- 内容は難しいものであるが、指標としては共通部分が多いので、自治・地域・その集合体である協働と発展的に考えていくために、単位毎に分析していけば良いと感じた。
- 指標を、客観・主観と明示したことによって、より具体的にイメージできるようになった。
- 「あるべき姿」13項目が結構お互いにかぶっているので苦労した。